

萩

Vol 2

ものがたり



高杉晋作

100問
100答

一坂太郎





晋作生誕地に建つ歌碑（萩市）

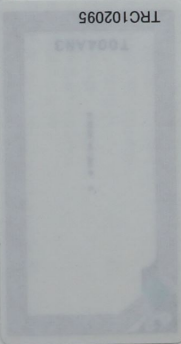
シリーズ

萩

ものがたり ②

高杉晋作

100問
100答



TRC102095

一坂太郎

目次

晋作 萩に生まる..... 5
Q 1 高杉晋作の生年月日は?
Q 2 生まれた場所は?
Q 3 両親はどんな人?
Q 4 高杉家の出自は?
Q 5 異名などは?
Q 6 兄弟は?
Q 7 少年時代は?
Q 8 晋作を生んだ精神風土は?
Q 9 どこで学んだ?
Q 10 少年時代に得意だったものは?
Q 11 黒船騒動で何を感した?
Q 12 松陰との出会いは?
Q 13 松下村塾でのライバルは誰?
Q 14 松陰から何を学んだのか?
Q 15 結婚は?
Q 16 妻はどんな女性?
Q 17 なぜ航海術を学ぼうとしたのか?
Q 18 試撃行とは?
Q 19 試撃行で出会った人は?
Q 20 初出仕は?
Q 21 晋作が行動出来ない理由とは?
Q 22 晋作の好物は?
Q 23 長井雅楽暗殺を企んだというのは本当か?
..... 15

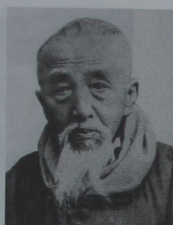
なぜ上海に行くことになったのか?
Q 24 その頃の上海情勢は?
Q 25 上海で何を見たのか?
Q 26 中国人との交流は?
Q 27 上海で行動を共にした日本人は?
Q 28 上海で何を感したのか?
Q 29 なぜ蒸気船を買おうとしたのか?
Q 30 なぜ脱藩したのか?
Q 31 心を許していたのは誰か?
Q 32 外国公使暗殺計画とは?
Q 33 英国公使館焼き打ち事件とは?
Q 34 なぜ幕府に捕らえられなかったのか?
Q 35 晋作の武勇伝は本当か?
Q 36 晋作の武勇伝は本当か?
Q 37 晋作の武勇伝は本当か?
Q 38 晋作の武勇伝は本当か?
Q 39 晋作の武勇伝は本当か?
Q 40 隠棲中に何をしてたのか?
Q 41 奇兵隊を創る..... 26
Q 42 なぜ御前に呼ばれたのか?
Q 43 どこで奇兵隊を結成したのか?
Q 44 なぜ白石一郎を頼ったのか?
Q 45 奇兵隊とはどんな軍隊か?
Q 46 なぜ奇兵隊に農民を入れたのか?
Q 47 長州諸隊とは何か?
Q 48 教法寺事件とは?
Q 49 なぜ奇兵隊総督を辞めたのか?
Q 50 なぜ京都に走ったのか?

京都で何を企んだのか?
Q 50 留守中の妻に書いた手紙とは?
Q 51 なぜ投獄されたのか?
Q 52 獄中では何をしていたのか?
Q 53 なぜ「禁門の変」に参戦しなかったのか?
Q 54 なぜ欧米列強と戦ったのか?
Q 55 どのように講和を締結したのか?
Q 56 なぜ失脚したのか?
Q 57 なぜ九州に逃れたのか?
Q 58 九州ではどこにいたのか?
Q 59 なぜ長州に帰って来たのか?
Q 60 晋作 決起す..... 36
Q 61 なぜ奇兵隊は起たなかったのか?
Q 62 晋作の拳兵とは?
Q 63 なぜ下関を占領したのか?
Q 64 勝算があった筈か?
Q 65 晋作が指定した墓碑銘とは?
Q 66 奇兵隊はいつ決起したのか?
Q 67 内戦の勝者はどちらか?
Q 68 内戦後の晋作の不満とは?
Q 69 なぜ下関開港を企んだのか?
Q 70 一緒に写真に収まったのは誰か?
Q 71 洋行費はどこに消えたのか?
Q 72 なぜ四国に逃れたのか?
Q 73 四国ではどこにいたのか?
Q 74 座石の銘は?
Q 75 なぜ改名したのか?

薩摩藩との同盟に果たした役割は?
Q 76 坂本龍馬への贈り物とは?
Q 77 なぜ長崎に行つたのか?
Q 78 長崎からおうに買った手紙とは?
Q 79 なぜ軍艦を独断で買ったのか?
Q 80 晋作 幕府と戦つ..... 47
Q 81 なぜ開戦したのか?
Q 82 なぜ士気が高まったのか?
Q 83 晋作の決意とは?
Q 84 四境戦争とは?
Q 85 戦いはいつ始まった?
Q 86 小倉戦争とは?
Q 87 小倉戦争での晋作の作戦は?
Q 88 戦場でのパフォーマンスタとは?
Q 89 なぜ幕府軍は戦意に乏しいのか?
Q 90 なぜ幕府軍は解兵したのか?
Q 91 どのように小倉藩を追い詰めたのか?
Q 92 晋作の病状は?
Q 93 晋作の信印は?
Q 94 東行庵とは何か?
Q 95 野村東武救出とは?
Q 96 遺言はあったのか?
Q 97 晋作はいつ、どこで亡くなったのか?
Q 98 晋作の葬儀は?
Q 99 晋作の息子のその後は?
Q 100 晋作没後の奇兵隊は?



母
ミナミ



父
小左衛門

晋作、萩に生まる

Q 1 高杉晋作の生年月日は？

A 天保十年（一八三九）八月二十日。

Q 2 生まれた場所は？

A 生家は長州藩の本拠である萩城下呉服町、通称菊屋横丁の一角にあった。現在の山口県萩市南古萩である。

Q 3 両親はどんな人？

A 父の長州藩士高杉小左衛門春樹（のち小忠太・丹治）は、勤勉実直な性格の能吏で、晋作もつねに頭が上がりなかった。十七歳で藩主斉元の小姓役として初出仕。続いて慶親（のち敬親）が藩主になると小納戸役に進んだ。のちには奥番頭・直目付・学習院用掛などの要職を歴任し、明治二十四年（一八九一）、東京で没した。

母は長州藩士大西将曹の次女ミチ（道子）で、高杉家に嫁ぎ一男三女をもうけ、明治三十年、東京で没した。

高杉晋作の魅力

高杉晋作はいまから百六十五年前（二〇〇四年現在）、萩城下で生まれた。晋作が生まれた「幕末」は、二百年以上にわたり日本を統治し続けた徳川幕府の矛盾が各地で噴き出した時代だ。しかも晋作が十五歳の時、アメリカの黒船が来航して開国を迫って以来、日本は国際社会という大海の中に、突如放りだされることになった。

晋作は江戸で黒船騒動を体験し、吉田松陰の教えを受け、欧米列強の支配下に置かれた中国上海を視察することで、日本の危機を救わなければならないとの強い使命感を燃やした。およそ武士に生まれた者は、国家の一大事が起こった時には危険を顧みず、真っ先に駆けつけねばならないとの教えを受けて育つ。晋作はまず、「志」のある武士から庶民までを動員し、奇兵隊を結成する。さらに不平等条約を日本に押し付けた欧米列強に抵抗し、日本を守り切れない幕府と戦い、新時代への道筋をつけてゆく。だが病のため、維新を眼前に二十八年足らずの短い人生を閉じねばならなかった。

誰もが目を見張った晋作の行動力は、後年、伊藤博文をして「動けば雷電のごとく、発すれば風雨のごとし」と評させたほどだ。時代の壁に遮られながらも、自らの志を信じて「幕末」を駆け抜けた晋作の生きざまは、いまなお多くの人々を魅了してやまない。本書では一問一答式で、晋作の生涯を探ってみることにした。以前、ある歴史雑誌で執筆した形式を、さらに発展させたものである。どこから読んでいただいてもいいし、通読すれば晋作の伝記の大略がお分かりいただけると思う。出来るだけ多くの人たちに、晋作の世界に触れてもらうことが出来れば、これに勝る幸せはない。



田政寺の天狗面（萩市）

Q 8 晋作を生んだ精神風土は？

A 中国地方の覇者だった毛利家は、慶長五年（一六〇〇）、関ヶ原合戦で徳川家康に敗れた。そのため毛利家は広島を追われ、周防・長門（現在の山口県）三十六万九千石に封じ込められてしまった。城も交通の便のいい瀬戸内に築くことは許されず、日本海に面した萩が選ばれた。以来、長州藩の中には、徳川幕府に対する恨みが根深く残り、それが二百年後の幕末、討幕のエネルギ―と化したという見方もある。

晋作生誕地（萩市）



Q 4 高杉家の出自は？

A 高杉家の先祖は安芸国探題の武田元繁であるという。その一族の武田小四郎春時が、戦国時代に毛利家に仕え、備後高杉村（現在の広島県三次市高杉町）に住んで高杉と称したという。あるいは、安芸国高田郡西浦の高杉山城主だったから、高杉になったという説もある。武田氏の流れをくむ家なので、家紋は丸に武田菱である。

幕末当時の高杉家の石高は二百石で、家格は徳川幕府の旗本にあたる八組（馬廻り・大組）だった。八組は長州藩の組織の中では一門、永代家老、寄組につぐ階級で、藩政の実務を行った。藩主の側近である奥番頭も、八組の中から選ばれた。

Q 5 異名などは？

A 晋作というのは通称である。諱（本名）は春風。字は暢夫。号はよく知られる東行の他、楠樹・西海一狂生・些々など。変名は三谷和介・谷梅之助・備後屋助一郎などいくつか用いた。慶応元年（一八六五）九月からは幕府の追及をかわすため、藩命により谷潜蔵と改名している。



松下村塾 (萩市)

同じころ、江戸で黒船騒動を体験した長州の吉田松陰は、幕府の弱腰外交を非難し、アメリカ密航を企てるも失敗した。あるいは江戸で剣術修行中の桂小五郎も、戦いに備えて西洋砲術を学び始めた。彼ら武士たちは、国家の一大事が起こった場合、真っ先に駆けつけるようにと、子供の頃から教育されている。危機感に突き動かされた若者たちは、攘を切ったように新しい時代を求めて走り始めた。晋作も、その一人だったのだ。

Q 12 松陰との出会いは?

A 晋作が吉田松陰のもとで学ぶようになったのは、安政四年（一八五七）後半、十九歳の時といわれる。松陰はアメリカ密航に失敗し、萩の松本村で謹慎の身のまま松下村塾を主宰し、近隣の子弟たちを教えていた。晋作も、自分が何をすべきなのかという「志」を求めて松陰に接近したのだろう。

しかし、松陰を危険人物視していた晋作の親たちは、大切な一人息子が松下村塾に通うことを禁止した。このため晋作は、親に内緒で松陰のもとを訪れて教えを受けた。

明倫館跡 (萩市)



Q 9 どこで学んだ?

A 幼年期は、藩校明倫館の小学舎や城下新堀町にあった吉松淳蔵の寺子屋で、読み書きを習った。十五歳の嘉永六年（一八五三）に明倫館の大学部に進み、安政四年（一八五七）には居寮生を命じられた。松下村塾に出入りし、吉田松陰の教えを受けるようになったのは、安政四年後半からと考えられている。安政五年七月に江戸へ遊学し、大橋訥庵の私塾や幕府の昌平坂学問所に学んだ。

Q 10 少年時代に得意だったものは?

A 十代の頃から武術を好み、弓・槍・剣道の稽古に励んだ。

Q 11 黒船騒動で何を感じた?

A 嘉永六年（一八五三）六月、アメリカのペリー提督率いる黒船が浦賀に来航し、幕府に対して開国するよう迫った。幕府は翌年返答するとして、ペリーに一旦去ってもらった。

くしくも晋作は十六歳の安政元年（一八五四）二月、父に従い黒船騒動で揺れる江戸に入った。その年三月、再来したペリーとの間に幕府は日米和親条約を結ぶ。ペリーの強引な態度に幕府が屈したのだ。



妻
マサ

A 長州藩士井上平右衛門（家禄二百五十石）の次女マサ（雅子・政子）で、万延元年（一八六〇）当時十六歳だった。萩城下一の美人といわれたという。以後、晋作が病没するまで七年あまりの結婚生活があったはずだが、一緒に過ごした時間は合計しても、一年半ほどしかない。せめてもの救いは、元治元年（一八六四）十月に一人息子の梅之進（のち東一）をもうけたことだろう。

後年、マサは「私は高杉と一所にいましたのは、ほんのわずかの間で、



吉田松陰（左）・金子重輔銅像
（萩市）

Q 13 松下村塾でのライバルは誰？

A 一つ年少の久坂玄瑞である。玄瑞は医者の子で、少年のころから秀才として知られていた。松陰は晋作を発奮させるため、わざと晋作の眼前で玄瑞を始めた。負けん気が強い晋作は、玄瑞に負けたくないとの一心で、猛勉強を始めた。やがて晋作の学問は大いに進み、玄瑞とともに松陰門下の「双壁」とか「竜虎」と呼ばれるようになる。

Q 14 松陰から何を学んだのか？

A 松陰は「志」を立てることが、人生のすべての基本だと考えていた。また、学ぶだけでなく、行動を起こすことが大切だとも教えていた。

幕府の開国政策を激しく批判した松陰は、「安政の大獄」に連座した。江戸に送られて投獄された松陰が、晋作にあてた手紙には「死して不朽の見込みがあらば、いつでも死ぬべし。生きて大業の見込みあらば、いつまでも生くべし。僕の所見にては生死は度外におきて、ただ言うべきを言うのみ」とある。これは以前、晋作が発した「丈夫（男子）、死すべきところいかか」という質問に対する答だった。そして松陰は安政六年（一八五九）十月二十七日、斬罪に処された。享年三十歳。志を貫くため

には生死をも度外視することを、松陰は命がけて晋作に伝えたのだ。

Q 15 結婚は？

A 晋作の父小忠太は、いつ暴走するか分からない息子に家庭を持たせることで、落ち着かせようとした。そこで万延元年（一八六〇）一月、晋作に嫁を迎えた。晋作はちょうど一年前、従兄弟に書いた手紙の中に、自分は孔子の説に従い、三十歳までは結婚しないと述べていた。しかし武家の一人息子として、子孫を残す義務も感じていたから、親が決めた結婚を承諾した。二十二歳の時のことだ。

Q 16 妻はどんな女性？

A 長州藩士井上平右衛門（家禄二百五十石）の次女マサ（雅子・政子）で、万延元年（一八六〇）当時十六歳だった。萩城下一の美人といわれたという。以後、晋作が病没するまで七年あまりの結婚生活があったはずだが、一緒に過ごした時間は合計しても、一年半ほどしかない。せめてもの救いは、元治元年（一八六四）十月に一人息子の梅之進（のち東一）をもうけたことだろう。



『試撃行日譜』（高杉家蔵）

試撃行日譜
高杉晋作
自著
大正十一年
入主

Q 18 試撃行とは？

A 航海学をあきらめた晋作は、万延元年（一八六〇）八月二十八日に江戸を発ち、北関東・信濃・北陸方面を遊歴しながら、十月下旬、萩に帰った。晋作はこの旅を「試撃行」と名付けている。その目的は各地の学者を訪ね、名山大川を歩き、詩を賦し、歌を詠じ、学校に入り、剣術試合をして自分を磨くのだと、晋作は旅日記『試撃行日譜』の巻頭で述べている。

萩に帰った晋作は、三年門を閉めて学問がしたくなつたと、久坂玄瑞に素直な感想を手紙で打ち明けている。「井の中の蛙」が大海に出、打ちのめされて、再び腰を据えて学問がしたくなつたようだ。

Q 19 試撃行で出会った人は？

A 試撃行で晋作は、三人の当代一流の学者に出会っている。常陸笠間の儒者加藤有隣、信州松代の佐久間象山、越前福井の横井小楠（熊本出身）である。

特に横井の、政治の目的は民を富ませることにあるという考えは、晋作に大きな影響を与えた。為政者である武士の暮らしを豊かにするため

其間東行はいつも外ばかり出ていました上、亡くなりましたのが未だ二十九というほんの書生の時でございましたから、私には東行に就いて御話する記憶がありません」（『日本及日本人』六七七号、大正五年）と、素っ気なく語っている。しかし晋作没後二十年祭では、亡夫から貰った手紙を取り出して「文見てもよまれぬ文字はおほけれど、なほなつかしき君の面影」と詠み懐かしむ。マサの心中に、晋作に対する複雑な思いがあったことがうかがえる。大正十一年（一九二二）、東京において七十八歳で没した。

Q 17 なぜ航海術を学ぼうとしたのか？

A 三方を海に囲まれた長州藩にとって、海防は切実な問題だった。晋作は軍艦に乗り込み、世界を相手に貿易することを夢見ていた。

そこで万延元年（一八六〇）四月、晋作は軍艦丙辰丸に乗り組み、萩から江戸まで約二カ月を費やして航海実習した。「男児として宇宙の間に生まれたのだ。筆や硯の家来になどなれるか！」と、意気込んで出かけた晋作だったが、「疎にして狂」という自分の性格が航海学に向きでないと悟り、江戸に到着した途端にあきらめてしまった。



久坂玄瑞

晋作、世界を見る

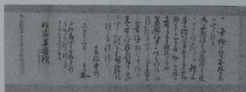
Q 21 晋作が行動出来ない理由とは？

A 松陰の志を継ぐため、久坂玄瑞ら門下生たちは危険な政治運動に身を投じるが、晋作は動かなかった。同志たちの間で、口先ばかりの奴だ、馬鹿だと、心ない非難が高まる中、晋作は玄瑞に手紙で苦しい立場を説明している。それによると、「僕、一つの愚父を持ちおり候。日夜僕を呼びつけ、俗論（つまらぬ考え）を申し聞かせ候。僕も俗論とは相考え候えども、父の事ゆえ、いかんとも致し方ござなく候」というのが、晋作が動けない理由なのだ。父小忠太は、ひとり息子に出来るだけ平凡な暮らしを望んでいた。晋作も父の思いに逆らい、不孝者になることは、どうしても出来なかつたのだ。

Q 22 晋作の好物は？

A 江戸滞在中に覚えたマグロの刺身の味が、忘れられなかつたようだ。あるいは長州鮪（鯛の白身の鮪）や、鯛のあら煮が好物だったとマサ夫

世子小姓役に就いた晋作が同僚に書いた吹聴状（春風文庫蔵）



晋作の詩

自笑

人生元一夢
須尽逸豪娛
自笑我心拙
終身学腐儒

自らを笑う

人生は元一夢

須らく逸豪の娛しみを尽くすべし

自笑我が心拙にして

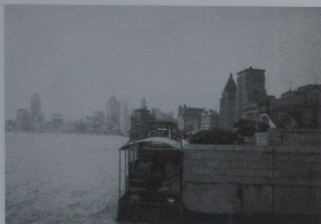
終身腐儒を学ばんとするを

江戸昌平坂学問所に学んでいた安政六年、二十一歳の頃の作。時局は切迫しているのに形骸化された儒学しか教えない官学の学風を「腐儒」と非難している。

に、民を隷属させるという当時の封建制度を否定しかねない考えだったからだ。国の基本は学校にあると考える晋作は翌年、藩校明倫館の学頭（校長）に横井を招こうと望んだが、実現しなかつた。

Q 20 初出仕は？

A 遊歴を終えて大きく成長した晋作に期待した藩は、文久元年（一八六一）三月、明倫館在勤中より藩主世子（若殿）毛利定広（のち元徳）の小姓役を命じた。小姓は主君の最も近くで仕える秘書のような役で、三百五十石以下の八組士および嫡子の中から任ぜられた。晋作としては、一人前の藩士として、まず順調なスタートを切ったことになる。



上海港

る。文久元年（一八六一）九月、長州藩は晋作を幕府使節団に加え、ヨーロッパを視察させようとしたが、実現しなかった。落胆する晋作に文久二年一月二日、藩は幕府の一团に加わり、清朝中国の上海で情勢視察するよう命じた。晋作は長崎まで行き、千歳丸に乗って四月二十九日、一行五十余名と共に上海に向けて出発した。

Q 25 その頃の上海情勢は？

A 晋作が上海に渡った文久二年（一八六二）は、清朝中国の年号では同治元年である。穆彦帝の時代だが、彼は六歳の幼帝で、政権は母の西太后が握っていた。この時から二十年前、アヘン戦争でイギリスに敗れた中国は「南京条約」を締結させられ、上海はじめ広州・福州・廈門・寧波の五港を開かされた。この五港にイギリスは領事館を置き、貿易の主導権も奪い、上海には「租界」を設けた。さらに西暦一八四四年にはアメリカとフランスが中国と通商条約を結び、イギリスに続く。以後一

Q 26 上海で何を見たのか？

A 文久二年（一八六二）五月六日、上海に到着した晋作ら一行は、港

人が語り残している。

Q 23 長井雅楽暗殺を企んだというのは本当か？

A 文久元年（一八六一）三月、長州藩が中央の政局に進出する際の藩論としたのは、直目付長井雅楽の建言「航海遠略策」だった。これは開国を既成事実として認めた上で、朝廷・幕府が一体となり日本を世界に押し出すというものだった。「航海遠略策」は朝廷・幕府両方から支持を受ける。ところが松陰の遺志を継ぎ、条約破棄、攘夷実行を唱える久坂玄瑞らは激しい反対運動を繰り広げ、ついには長井暗殺を企んだ。

世子小姓役として江戸に在った晋作は、刺客の役を買って出たというが、史実としては怪しい。むしろ、文久元年（一八六一）九月二十八日の日記に、長井を御奥侍御史（藩主側近）に就けるよう記しているくらいだ。晋作は、長井の公武周旋には反対だったが、長井という人物は大いに認めていたようだ。

Q 24 なぜ上海に行くことになったのか？

A 晋作に海外視察の希望があったことは、「翼あらは千里の外も飛めぐりよろづの国を見んとしぞおもふ」と詠んでいることからうかがえ



晋作の上海土産香炉（高杉家蔵）

とを、他年まさに勲功を建つることあるべし、孤生千里帰郷の後、患難に遇う毎に又君を思わん」。帰国後も苦しいことがあるごとに、君のことを思うという一節が、国境を越えて芽生えた友情の深さを物語る。

Q 28 上海で行動を共にした日本人は？

A 晋作の日記を見ると、佐賀藩士中牟田倉之助と薩摩藩士五代才助（友厚）の二人と、特にひんぱんに交流している。

中牟田は藩の海軍所教官で、英語も堪能だった。晋作がアメリカ商人やイギリス人宣教師などから情報を集めることが出来たのも、中牟田が通訳してくれたおかげだ。一方、漢学が得意だった晋作は、中牟田のために現地の漢文新聞の読み方を教えたりした。五代は水夫として随行していたが、藩命で半年前にも上海に渡り、蒸気船を購入していた。

Q 29 上海で何を感じたのか？

A 約二カ月の上海視察を終えて長崎に帰着した晋作は、中国が欧米列強の支配下に置かれた原因を「空しく歳月を送り、断然大平の心を改め、軍艦・大砲を製造し、敵を敵地に防ぐ大策が無かったためだ」と見ていた。さらに、それは中国の問題ではなく「我が日本もすでに覆轍を踏む

を埋め尽くすヨーロッパ諸国の商船や軍艦、陸に並ぶ商館に目を奪われた。だが、こうした繁栄の裏で、実は中国を侵略する列強の勢いは止まるところを知らなかった。

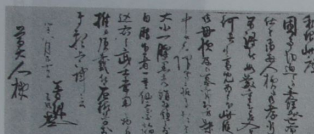
上海市街を連日のように歩いた晋作は、日記「遊清五録」五月二十一日の条に次のように記す。「支那人はことごとく外国人のために使役させられ、英仏の人が市街を歩けば、清人は皆避けて傍らに道を譲る。実に上海の地は支那に属するといえども、英仏の属地というべきだ」。あるいは、太平天国の乱を自国で鎮圧することが出来ず、英仏の軍隊の力を借りていることにも疑問を感じる。

晋作はアヘン戦争に敗れることで、列強の支配を受けることになった惨めな中国の真の姿を、上海市街の各所に見ることになったのだ。

Q 27 中国人との交流は？

A 晋作は上海市街で現地人と筆談をし、情報を集めた。

中でも陳汝欽という青年とは、志を語り合って意気投合したようだ。陳は市街を取り囲む城壁の、西門を守る兵士だった。帰国が近づいた六月二十日、晋作は陳に別れの詩を贈っている。「敵に臨みて練磨す武と文



出奔するにあたり、晋作が父に残した手紙（東行先生遺文）

だが、晋作は本気で攘夷を行うのなら、一刻も早く藩地に立て籠もり、富国強兵して実力を蓄えるべきと考えていた。そして、自分の意見が容れられないと知るや、閏八月二十七日に江戸から出奔し、攘夷決行の同志を募るため水戸を目指す。その際、父に書き残した手紙に、今後両親に孝行出来ないと何度も謝っているのが、実に晋作らしい。だが、常陸笠間で加藤有隣に計画を反対された晋作は、九月には江戸に帰った。

Q 32 心を許していたのは誰か？

A 六歳年長の桂小五郎は、晋作の脱藩罪のみみ消しに奔走し、なにかと親身になって相談に乗ってやったようだ。晋作は不安定な自分の気持ちに「ぶらぶらとして、瓢に未だ酒を入れぬ時のごとく、座りも悪しく、又しめくりもこれ無し」と、桂に手紙で打ち明ける。また、別の手紙では「一日見ず三月のごとし、嗚呼友情とは是を謂うか」と述べる。

Q 33 外国公使暗殺計画とは？

A 開国から攘夷に方針を急転換した長州藩は、かえって世間の信用を失った。そこで晋作は久坂玄瑞・志道聞多（井上馨）ら十名の同志と、攘夷のきっかけを作るため、文久二年（一八六二）十一月、横浜金沢で

の兆しあり」と感じた。「覆轍」とは前人の失敗を繰り返すとの意味である。幕府が欧米列強との間に結んでいた「安政の五カ国条約」は、治外法権を認め、関税自主権も無い、日本にとっては不利な条約だった。このまま幕府に日本を任せておいては、中国同様になってしまおうという危機感が、晋作を行動の人に変えようとしていた。

Q 30 なぜ蒸気船を買おうとしたのか？

A 薩摩藩が蒸気船で、世界を相手に貿易する計画があると五代才助から聞かされた晋作は、長州藩が時代に取り残されると痛感。当時、長州藩は帆船軍艦を二隻所有するのみだった。そこで文久二年（一八六二）七月、長崎に帰着するなり、オランダが売りに出していた二万両の蒸気船の購入契約を、独断で結んでしまう。だが、藩首脳は晋作の勝手な振る舞いを許さず、オランダ側も手を引き、破談に終わった。

Q 31 なぜ脱藩したのか？

A 晋作の留守中、長州藩は破約攘夷に方針を一転。文久二年（一八六二）閏八月には朝廷も長州藩に促され、攘夷の方針を定める。長州藩は朝廷の権威を後ろ盾とするため、京都で大金を費やして周旋していた。

が外国側は応じなかった。幕府が朝廷と外国の間で板挟みになって苦しんでいたところに、英国公使館が焼けた。テロ再発を恐れる外国側は、二度と御殿山の使用を言い出さなかった。だが、英国公使代理ニールなどは、焼き打ちは幕府の仕業ではないかと疑ったほどだ。晋作らは命懸けで、一時的だが幕府の危機を救ったことになる。幕府としても藪蛇になつては困るので、犯人の詮索を本気で行わなかったのだらう。

Q 36 なぜ松陰の遺骸を改葬したのか？

A 安政の大獄で処刑された吉田松陰の遺骸は、罪人として千住小塚原の刑場に埋められたままだった。そこで久坂玄瑞らは周旋し、文久二年（一八六二）十一月、幕府から安政以来の国事犯に対する大赦令を出すことに成功した。これを受けて文久三年一月五日、晋作は伊藤俊輔（博文）・赤祢武人・堀真五郎らと共に、松陰の遺骸を掘り出し、荏原郡若林村（現在の東京都世田谷区若林）の毛利家所有地に改葬した。のち、ここには松陰神社が建てられ、現在に至る。このように、罪人のレッテルを剥がされた松陰の霊は、その後長州藩を尊王攘夷路線で一本化するための精神的シンボルとしても、祭り上げられてゆくのである。



若き日の伊藤博文（高杉家威）

外国公使襲撃を企てた。その年八月、生麦事件で薩摩藩がイギリス人を斬り、尊攘派の喝采を浴びたことへの対抗意識もあったと思われる。

だが、計画は同盟を求めた土佐藩の同志からもれ、神奈川宿に集まっていた晋作らは、蒲田梅屋敷まで連れ戻され、藩主世子毛利定広から説諭を受けて、中止せざるをえなくなる。

Q 34 英国公使館焼き打ち事件とは？

A 外国公使襲撃計画は中止したものの、晋作や玄瑞らは攘夷の初志を貫くため、幕府が品川御殿山に建設中の英国公使館に忍び込み、焼き払った。文久二年（一八六二）十二月十二日深夜のことである。

Q 35 なぜ幕府に捕らえられなかったのか？

A 英国公使館焼き打ちに参加した伊藤博文は、捕らえられなかった理由を後年、幕府が長州藩の勢いを恐れていたからだだと、得意げに語った。しかし幕府側の内情は、違ふようだ。

花見の名所で、江戸湾を見下ろす要衝でもある御殿山を外国に貸すことは、官民両方から反対の声が起こっていた。さらに孝明天皇も、反対の意を伝えて来たため、幕府は外国公使側に計画変更を求める。ところ

晋作の詩

調回先生若林
村墳墓
要思往事慰英魂
未能小子雪旧冤
墓下回顧少年日
若林村景猶松村

調回先生若林の墳墓に調す
往事を思ひて英魂を慰めんと要す
小子未だ能く旧冤を雪がざるを
墓下に回顧す少年の日
若林村の景なお松村のごとし

文久三年一月五日、江戸で先師松陰（回先生）の改葬を行った際、作った詩。当時、松陰をあらたに埋葬した若林（現在の世田谷区）が、萩の松本村の景色に似ていたことが分かる。

晋作遺愛の瓢（高杉家蔵）



Q 37 晋作の武勇伝は本当か？

A 晋作は松陰の遺骸を改葬する際、將軍しか渡ることが許されない上野三橋の中央を、強引に通行したという。また、江戸から京都に向かう途中、箱根関所を駕籠に乗ったまま手形も出さずに、通行したという。あるいは、天皇の加茂行幸に従う將軍家茂の行列目にかけて「よお！征夷大將軍」と、野次を飛ばしたともいう。多くの小説や伝記が「見せ場」にする、いかにも破天荒な晋作らしい武勇伝だが、確かな史料による裏付けがあるわけではなく、後世の創作と考えられる。

Q 38 なぜ「東行」と号したのか？

A 文久三年（一八六三）三月十五日、京都にいた晋作は突然、十年の暇を藩に願ひ出て許された。そして翌十六日、みずから東行と号し、剃髪して「西へ行く人をしたひて東行く わが心をば神やしるらむ」と詠じた。武士を捨てて歌人になった西行法師に対する憧れと、いずれは関東へ行き、幕府と戦うのだという決意が込められた号だ。実践重視の富国強兵策が藩から相手にされず、思い詰めた末の奇行だった。

Q 39 どこに隠棲したのか？

A 僧形となり、京都で酒色に溺れる晋作を持て余した藩は、文久三年（一八六三）四月、晋作を萩に帰らせた。晋作ははじめ菊屋横丁の自宅に入ったが、やがて萩郊外松本村に小さな家を借り、妻マサと一緒に隠棲生活を始めた。その家は、松本村団子岩の吉田松陰墓に近かった。

Q 40 隠棲中に何をしていたのか？

A 晋作は松本村で松陰遺稿を読むなど、静かな生活を送ったが、一方で友人の久保松太郎に刃渡り二尺五寸以上の長刀を注文するなど、いつでも戦いに出れるよう、準備をしていたようだ。

毛利慶親（左）・定広父子
（山根家蔵）



晋作、奇兵隊を創る

Q 41 なぜ御前に呼ばれたのか？

A 將軍家茂が孝明天皇に約束した攘夷実行の期日、文久三年（一八六三）五月十日がやって来ると、長州藩は本州最西端の下関（馬関・赤間関）の砲台から、関門海峡を通航する外国艦を片っ端から砲撃するところが六月になり、アメリカやフランス軍艦の反撃を受け、攻から守へと方針を転換しなければならなかった。

山口にいた藩主毛利慶親・定広父子は、萩で隠棲する高杉晋作を御前に呼び出し、今後の対策につき意見を求める。晋作は上海に渡り、海外事情にも通じた人材として期待されていたのだ。晋作は藩の正規軍を助ける奇兵隊を結成することを提案。藩主は即座にこれを許し、晋作に下関防衛の立て直しを任せた。十年の暇は、三カ月足らずで終わった。

Q 42 どこで奇兵隊を結成したのか？

A 文久三年（一八六三）六月六日、下関に入った晋作が奇兵隊を結成

したのは、下関竹崎の商人白石正一郎の屋敷である。現在の下関駅西口近く、中国電力がその跡地で、碑が建てられている。

Q 43 なぜ白石正一郎を頼ったのか？

A 長州藩経済の中心地である下関の大半は、支藩である長府藩（五万石）と清末藩（一万石）の領地だった。よって、萩の本藩の家臣である晋作は、地元の有力者である白石正一郎に協力を仰ぎ、足場を固めてから活動する必要がある。白石は国学を修めた教養人で、各地を奔走する「志士」たちとも交流があった。ただしよく言われるような豪商、パトロンといった大規模な商人ではない。

Q 44 奇兵隊とはどんな軍隊か？

A 結成当初、晋作が考えた奇兵隊とは、藩の正規軍に対するゲリラ部隊だった。有志の者の集まりで、武器は和洋を問わない。しかも力量を尊び、論功行賞を速やかかつ公平に行ない、兵士を奮起させようとした。下関防衛を目的として結成されたが、長州藩の方針が攘夷から討幕へと移るのに従い、外国軍から幕府軍へと戦う相手も変わっていった。

忠義填骨髄

奇兵隊軍旗（高杉家蔵）

Q 48 なぜ奇兵隊総督を辞めたのか？
晋作は文久三年（一八六三）六月二十七日より政務座役と奇兵隊総

A 晋作が奇兵隊結成と同時に進めたのは、藩の正規軍である先鋒隊の立て直しだった。だが、性格の異なる先鋒隊と奇兵隊は感情的な対立を重ねたあげく、文久三年（一八六三）八月十六日夜、ついに衝突する。ささいなトラブルから奇兵隊が先鋒隊宿舎の教法寺を襲撃し、先鋒隊士一名を斬殺したのだ。八月二十七日、事件の直接の原因を作った奇兵隊士宮城彦助が切腹することで一応の決着がついたが、一時は責任を感じた晋作も藩に切腹を願い出、死を覚悟していた。

Q 47 教法寺事件とは？

A 奇兵隊結成後、長州藩では「雨後の竹ノ子」のように、民衆も参加した「奇兵隊的」な軍隊が続々と生まれた。遊撃隊・御楯隊・八幡隊など。中には商人の集まりである朝市隊や、僧侶の集まり金剛隊、力士の集まり力士隊などもあった。これらは「諸隊」と呼ばれ、その数は幕末の数年間でのべ四百を越えたという。

Q 46 長州諸隊とは何か？

太平の世に馴れた武士は、実戦で役立つかも怪しくなっていた。では、近代的な平等意識をもって奇兵隊が結成されたのかというと、これは違う。同じ隊士でも服装から髪形にいたるまで、士庶の区別は歴然とあった。全人口の一割にも満たない武士階級だけで外敵と戦っても、勝てない。そこで晋作ら藩側には、残りの九割以上である民衆を動員する発想が生まれる。十三万人が年貢軽減などを求め蜂起した、天保の大一揆で苦しめられた経験を持つ長州藩は、民衆エネルギーの凄さをよく知っていた。これを、外国や幕府に向けようというのだ。

Q 45 なぜ奇兵隊に農民を入れたのか？
奇兵隊の特徴のひとつに、武士以外の者の入隊を許した点が挙げられよう。隊士名簿『長藩奇兵隊名鑑』を分析した小林茂によると、出身階級が分かる五百五十九名のうち士二百七十二名（四八・七％）、農二百三十七名（四二・四％）、町二十五名（四・五％）、社僧二十五名（四・五％）という割合だったという。半分近くを占める士だが、その多くは足軽・中間や陪臣といった下級武士だった。



奇兵隊士（武広家蔵）



長州藩京都邸跡
(京都市)

督を兼任していたが、「教法寺事件」により一旦、政務座役を解任された。しかし九月十日になると政務座役に再任され、十五日に今度は奇兵隊総督を解任される。八月十八日、京都で起こった政変により窮地に立たされた長州藩は、下関から晋作を引き上げさせ、山口で政治に専念させようとしたのだ。後任の奇兵隊総督は河上弥一と滝弥太郎だった。

Q 49 なぜ京都に走ったのか？

A 文久三年（一八六三）八月十八日の政変で、長州藩をはじめとする尊攘派は失脚し、京都を追われた。そこで軍勢を率いて京都に上り、武力を背景に、失った地位を取り戻そうとする「進発派」が台頭する。

元治元年（一八六四）一月二十五日、藩主の命を受けた晋作は、宮市（現在の防府市）に進発派の遊撃軍総督来島又兵衛を訪ね、計画の中止を求めた。ところが来島は納得せず、結局、晋作が京都に行き、現地の情勢に詳しい桂小五郎や久坂玄瑞の意見を聞くことになる。桂らが進発に賛同すれば来島は行動を起こし、反対すれば中止するというのだ。

Q 50 京都で何を企んだのか？

A 京都に上って来た晋作から事情を聞いた桂らは、進発は無謀である

と即座に反対。ところが長州藩政府では、晋作が来島説得の役目を放棄し、出奔したと見なした。誤解を受け、非難を浴びた晋作は京都で、中岡慎太郎（土佐浪士）らと薩摩藩主の父島津久光を暗殺する計画を立てる。この時期の薩摩藩は会津藩とともに、長州藩を窮地に追い込んだ最大の政敵だった。しかし晋作は元治元年（一八六四）三月十九日、藩主の使者により萩に連れ戻され、暗殺計画は自然消滅した。

Q 51 留守中の妻に書いた手紙とは？

A 元治元年（一八六四）二月十八日、晋作は上方から山口で留守を守る妻マサに、手紙を書いている。「武士という者はこれくらいに常にごさ候間、腹を強う思い、留守をたしかに致され候よう、万々頼みまいらせ候：武士の妻は町人や百姓の妻とは違うところ忘れぬ事専らにござ候」と、『曾我物語』と『いろは文庫』を添えて送った。非常時だからこそ、日常の心得を冷静に確認しようとしたのだろう。

Q 52 なぜ投獄されたのか？

A 元治元年（一八六四）三月二十九日、晋作は萩城下の野山獄に投ぜられた。藩主の命を待たずに上方に脱走した罪である。その頃、進発派



外国軍に占領された下関前田砲台

A 謹慎の身のまま晋作は、四カ国側との講和使節を命じられ、談判にのぞんだ。その結果、外国艦の海峡通航を認めること、砲台を修復しないこと、下関で水や燃料・食糧の補給を認めることなどが取り決められた。しかし晋作らは、三百万ドルの賠償金支払いには応じなかった。長州藩には将軍が定めた攘夷期日を実行したに過ぎぬという、大義名分が

Q 56 どのように講和を締結したのか？

島又兵衛・真木和泉ら約二百名が戦死、自決しているから、もし獄に繋がれていなければ、晋作も戦場に屍をさらしていたかもしれない。

Q 55 なぜ欧米列強と戦ったのか？

A 長州藩の攘夷は単純な排他主義ではなく、日本に不平等条約を押し付けた欧米列強に対する抵抗だった。日本を列強と対等な立場に立たせた上で、開国をやり直すのが真の目的だ。元治元年（一八六四）八月、英米仏蘭の四カ国連合艦隊十七隻は、関門海峡を封鎖されて貿易の利益を受けたとし、下関を砲撃した。奇兵隊は前田・壇ノ浦の砲台を死守して戦ったが、近代装備の前に敗れる。しかしイギリスなどは、外国の言いなりの幕府よりも、抵抗した長州藩に好意と信頼を寄せ始めた。

野山獄跡（萩市）



の兵士たちが、勝手に藩を脱走する勢いがあったため、見せしめの意味もあったようだ。ただし、脱走したつもりはない晋作は、藩の処置に納得しておらず、その「志」をせめて子孫に知ってもらいたいと、『投獄文記』と題した獄中日記を記し始める。

Q 53 獄中では何をしていたのか？

A 約八十日の獄中生活で、晋作は読書と詩作に明け暮れた。読書は一日二十から九十葉、詩作は一、二作だった。また、杉梅太郎（松陰の実兄）の依頼で、先師松陰の全集編纂の準備のため遺稿を校閲した。投獄初日、晋作は「先生を慕うてようやく野山獄」と詠んだが、松陰もかつて二度、野山獄に投じられた。松陰の志を継こうとする決意である。

Q 54 なぜ「禁門の変」に参戦しなかったのか？

A 進発派の勢いに引きずられた長州藩は、元治元年（一八六四）七月十九日、京都に攻め込み、会津・薩摩藩等の軍勢と戦ったが、敗走した。これが「禁門の変」「蛤御門の変」と呼ばれる戦いである。

晋作は六月二十一日、野山獄を出て自宅の座敷牢にいたため、戦いには出ていない。長州軍は久坂義助（玄瑞）・入江九一・寺島忠三郎・来

晋作の詩

題 焦心録後

内憂外患迫吾州
正是危急存亡秋
唯為邦君為邦国
降殫名姓又何愁

焦心録後に題す

内憂外患吾が州に迫る
正に是れ危急存亡の秋
唯邦君のため邦国のため
降殫名姓又何ぞ愁えん

元治元年後半、長州藩は内からは幕府征

長軍が、外からは四カ国連合艦隊が迫ると
いう、まさに内憂外患の危地に立たされて
いた。「焦心録」（未詳）を読み、決意をあ
らたにして作った詩である。



晋作が潜伏した平尾山荘
(福岡市)

あつたからだ。後日、賠償金は幕府が支払うことで話がまとまった。

Q 57 なぜ失脚したのか？

A 朝廷は「禁門の変」で敗れた長州藩に「朝敵」の烙印を押し、幕府に長州征伐を命じた。長州藩では、それまでの「正義派」から、幕府征長軍に対し恭順謝罪を唱える「俗論派」に政権が移る。元治元年（一八六四）九月下旬になると「正義派」は藩政府からほとんど姿を消し、同月二十五日には「正義派」の中心人物である周布政之助が山口で自決、井上聞多（馨）は刺客に襲われて重傷を負った。晋作も十月十七日、政務座などの現職を退き、萩へと引きこもりざるをえなかった。

Q 58 なぜ九州に逃れたのか？

A 元治元年（一八六四）十一月一日、晋作は下関から海路、九州福岡に逃れた。長州征伐に批判的だった福岡・佐賀藩主の力を借り、幕府に対抗出来る軍事力を築こうと考えたのだ。

Q 59 九州ではどこにいたのか？

A 九州の同志たちは長州藩のために動けるような情勢ではなく、晋作は自分の考え方が他力本願に過ぎたことを痛感した。そこで福岡藩の月

形洗蔵の斡旋で、福岡郊外平尾山荘に棲む野村望東のもとに潜伏し、再起の機会をうかがった。望東は福岡藩士の妻だったが、夫の没後仏門に入り、時には「志士」たちを庇護した勤王歌人である。

Q 60 なぜ長州に帰って来たのか？

A 望東のもとで十日ほど過ごした晋作は、幕府の圧力に屈した長州藩政府が、「正義派」の三家老、四参謀を処刑したとの知らせを受ける。そこで晋作は帰国して「俗論派」政権を打倒する決意を固めた。下関に帰ったのは、元治元年（一八六四）十一月下旬のことだった。

Q 65 晋作が指定した墓碑銘とは？

A 死を決意した晋作は拳兵後、同志に書き送った手紙の中に、自分の墓碑に「故奇兵隊開闢総督高杉晋作」「毛利家恩古（願）臣高杉某嫡子」と刻むよう指定している。封建制度を壊しかねない奇兵隊の創設者であ



五卿に挨拶する晋作
（三条実美公履歴）

晋作、決起す

Q 61 なぜ奇兵隊は起たなかったのか？

A 奇兵隊総督赤祢武人らは「俗論派」との間に、諸隊が鎮静すれば獄中の「正義派」要人を処刑しないとの約束を取り交わしていた。長府（現在の下関市）に割拠する諸隊は、幕府征長軍に周囲を囲まれているさ中に、内戦を起こすべきではないと考えていたのだ。これが晋作の、武力で「俗論派」政権を打倒するしか道はないという意見と対立してゆく。

Q 62 晋作の拳兵とは？

A 元治元年（一八六四）十二月十五日深夜、晋作は長府功山寺に潜伏する三条実美ら尊攘派五卿に「是よりは、長州男児の腕前をお目にかけて申すべし」と挨拶した後、遊撃軍・力士隊の約八十名を率いて下関新地の藩会所を襲撃し、占領した。これが「下関（馬関）拳兵」である。さらに三田尻（現在の防府市）海軍局に走り、軍艦を奪って、「俗論派」への反旗を翻したのである。

Q 63 なぜ下関を占領したのか？

A 下関は北前船の寄港地、折り返し地点として栄えた、大坂と並ぶ西日本経済の中心地だったからだ。中でも新地は、萩藩の領地だった。

Q 64 勝算があった拳兵か？

A 晋作が下関を占領した時、新地会所には武器や食料、金銭は残っていなかった。困った晋作が、山口矢原の大庄屋吉富藤兵衛に軍資金の援助を依頼するのが、拳兵十日後のことだ。この点ひとつを見ても、準備不足だったことが分かる。だが、晋作にとって勝算の有無は、さほど重要ではなかった。たった八十名で「俗論派」に挑み、その決意を示すことで、同志を奮起させようとしたのだろう。物事を義と公に照らして恥じなければ断固行動すべしという、晋作が信奉した陽明学の正道をゆく行為だった。

Q 65 晋作が指定した墓碑銘とは？

A 死を決意した晋作は拳兵後、同志に書き送った手紙の中に、自分の墓碑に「故奇兵隊開闢総督高杉晋作」「毛利家恩古（願）臣高杉某嫡子」と刻むよう指定している。封建制度を壊しかねない奇兵隊の創設者であ



大田・繪堂戦跡 (美東町)

Q 69 なぜ下関開港を企んだのか?
A 晋作は下関を世界に向けて開港し、貿易により長州藩の富国強兵を進めようとした。しかし開国以来、貿易の利益を独占し続ける幕府が、それを認めるはずがない。そこで晋作は、長州藩が幕府の頭上を飛び越

え、民衆のエネルギーが、それほど強くなっていたのである。晋作は「人は艱難は共にすべきも、安楽は共にすべからず」ともらし、干城隊の幹部にもならず、新政権の椅子にも座ろうとはしなかった。

Q 68 内戦後の晋作の不満とは?
A 奇兵隊はじめ諸隊は内戦後、藩の政治に対する発言力を強め、増長を続けた。これは封建秩序の崩壊を意味し、晋作ら藩士からすれば、面白いことではない。晋作は藩士からなる干城隊で、諸隊を統制しようと企むが、これも上手くいかなかった。

ついに撃退した。さらに萩では中立派が組織され、内戦の調停に乗り出す。その結果、「俗論派」は政権の座から排斥され、「正義派」が復権。長州藩は萩から山口に拠点を移し、表では恭順を装いながら、裏では戦う実力を蓄えるという方針に統一されてゆく。

Q 67 内戦の勝者はどちらか?
A 諸隊軍は、大田・繪堂で十日間にわたり政府軍と激戦を繰り広げ、

起こった。
一方、幕府征長軍はこの三日間、長州藩の恭順を確認したとして、引き上げを開始していた。長州藩に同情的だった総督徳川慶勝（尾張前藩主）や参謀の薩摩藩士西郷隆盛が、内戦への介入を許さなかったのだ。だが不戦解兵は、幕府内でも納得しない者が多く、早くも再征伐の声が起こった。



晋作の兜 (高杉家蔵)

ることと、毛利家譜代という封建社会の中での誇りが表裏一体となっている点が、過渡期の人物晋作らしい矛盾と言える。

Q 66 奇兵隊はいつ決起したのか?

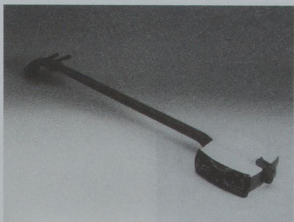
A 晋作挙兵後、奇兵隊はじめ諸隊は山間部の伊佐（現在の美祢市）に移り、形勢を見守っていた。しかし慶応元年（一八六五）一月七日未明、諸隊軍は繪堂（現在の美祢郡美東町）の「俗論派」政府軍本陣を奇襲し、晋作らに呼応する。同じ日、諸隊は小郡勘場（代官所）を襲撃して軍資金を借用し、さらに協力してくれる代官と提携し、山口・船木・徳地・三田尻・吉田・大島の行政機能を次々と掌握していった。

一方、幕府征長軍はこの三日間、長州藩の恭順を確認したとして、引き上げを開始していた。長州藩に同情的だった総督徳川慶勝（尾張前藩主）や参謀の薩摩藩士西郷隆盛が、内戦への介入を許さなかったのだ。

だが不戦解兵は、幕府内でも納得しない者が多く、早くも再征伐の声が起こった。



晋作、伊藤俊輔（右）・三谷国松（高杉家蔵）



晋作遺愛の道中三味線（高杉家蔵）

し、直接イギリスと開港条約を結ぶことを提案した。イギリスの後ろ盾があれば、幕府も容易に長州藩に手出しは出来ないはずだ。

慶応元年（一八六五）三月、晋作は使節としてイギリスに渡るため、一旦長崎の英国領事ガワーを訪ねる。しかしガワーは、長州藩の申し入れを拒否した。イギリスも表立って長州藩に肩入れするのは、まだ時期尚早だったからだ。晋作はイギリス行きを諦め、空しく帰国した。

Q 70 一緒に写真に取まったのは誰か？

A イギリスに渡るため長崎を訪れた晋作は、写真師上野彦馬のスタジオで写真を撮った。中央の椅子に晋作が腰掛け、向かって右に伊藤俊輔が立ち、左に少年の三谷国松（春道）が座る。伊藤は英国留学の経験があったから、通訳として連れて行こうとしたのだろう。三谷は秋の医者の子で、晋作が家来として可愛がっていた。のちの品川駅長である。

なお晋作は翌二年にも上野のスタジオで、写真を撮った。こちらは一人で椅子に腰掛け、断髪、着流しで、長い刀を左手に握る（表紙参照）。現存する晋作の写真は、この二枚である。



晋作と共に改名した桂小五郎

Q 76 薩摩藩との同盟に果たした役割は？
A 晋作は木戸貫治と共に下関の越前方・新地会所・外国人応接所に開

き、武器密輸や薩摩藩との提携の下準備に奔走した。そして最終的な

幕府は十一月十六日、問罪使を広島に送り、長州藩の非を詰問して、

なんとか再征伐の大義名分を得ようとしていた。そして幕府は、晋作・

桂小五郎ら十二名の出頭を命じたが、長州藩は行方不明などと曖昧な回

答をし、これを撥ね付けている。

Q 74 座右の銘は？
A 「男子というものは、困ったということとは、決して言うものじやな

い」。晋作は父小忠太から与えられたこの一言を、座右の銘としていたと

いう。どんなに窮地に立っても、必ず打開の道はあるというのだ。

Q 75 なぜ改名したのか？
A 慶応元年（一八六五）九月二十九日、幕府からの追及から逃れるた

め、藩は晋作を「谷潜藏」、桂小五郎を「木戸貫治」と改名させ、別人に

仕立ててしまった。

Q 72 なぜ四国に逃れたのか？
A 晋作・伊藤俊輔・井上聞多を暗殺しようとして付け狙う長府藩士から逃

れるためである。下関の大半を領する長府藩は開港に反対し、萩の藩士

である晋作らの行動を妨害し、暗殺を企む。危機を感じた晋作は慶応元

年（一八六五）四月下旬、愛人おおうのと共に海路四国へと逃れた。井上

は九州別府へ、伊藤は下関市街に身を潜ませた。

Q 71 洋行費はどこに消えたのか？
A 洋行を諦めた晋作だったが、若い藩士の中から南貞助・山崎小三

郎・竹田庸次郎を選び、代わりに「志」を継いでもらおうとした。その

ため、藩から引き出していた旅費一千両を三人に譲り、イギリス留学に

送り出した。ちなみに南は晋作の従弟で、明治四年（一八八二）、英国人

女性を妻とし、日本で初の国際結婚をすることになる。

日柳燕石像（琴平町）



Q 73 四国ではどこにいたのか？
A 晋作は道後温泉に二週間潜伏した後、讃岐琴平の勤王博徒日柳燕石

を頼った。四十九歳の日柳は晋作と意気投合し、「一身を抛ち潜伏させる」

とまで誓った。その言どおり閏五月三日、高松藩の捕吏が迫るや、日柳

は自ら縛りに就き、晋作とおうのを逃した。



晋作墓前に立つおのの(梅処)

真流年廿二
風を交け給日
松下山崎行
葬行九月二十

張を願い出た。晋作は伊藤俊輔を伴い、まず長崎の薩摩藩邸に入った。しかし鹿児島ではまだ長州人を敵視する風潮があり危険だと諭され、晋作は鹿児島行きを中止した。さらに晋作は長崎から上海に渡り、洋行しようとするが、幕府・長州藩の開戦が近づいたため、断念し帰国した。

Q 79 長崎からおののに書いた手紙とは？

A 慶応二年(一八六六)四月五日、長崎から晋作は、下関に残して来た愛人おののに、仮名交じりの手紙を書いている。丹前を送るから洗濯して欲しいと頼み、辛抱するよう、人に騙されぬよう、風邪をひかぬようにと優しく気遣う。

おののは下関裏町の芸妓で、源氏名を此の糸と云った。人のよい柔順な女性と伝えられ、晋作にとっては安らぎを感じさせてくれる大切な存在だったようだ。おののは晋作没後、仏門に入り、梅処と号し、谷家を継ぎ東行庵で明治四十二年(一九〇九)に没するまで、晋作の墓守りを続けた。

Q 80 なぜ軍艦を独断で買ったのか？

A 長崎のグラバー商会が売りに出していた、オテントーと号した英国

詰めの部分は交渉能力に長けた木戸を表に立たせ、自分は裏方に徹した。木戸は感情的な理由から、京都での薩摩藩との会談を渋った。そこで晋作と井上聞多は藩主の命を出させて、木戸を京都へ送り出す。慶応二年(一八六六)一月、木戸は薩摩藩首脳の小郷隆盛・小松帯刀らと談義し、両藩の提携を実現させた。朝敵の汚名を受けた長州藩復権のため、薩摩藩がいかに協力するかが、同盟の主眼だった。

Q 77 坂本龍馬への贈り物とは？

A 晋作はピストル一挺を、土佐脱藩の坂本龍馬に贈った。龍馬は薩摩藩の庇護の下、長州藩との間を周旋していた。晋作は上海で二挺のピストルを購入した他、帰国後も何挺か入手していた。龍馬は慶応二年(一八六六)一月二十三日深夜、伏見寺田屋で幕府方に襲われた際、晋作から貰ったピストルで応戦して、虎口を脱している。

Q 78 なぜ長崎に行ったのか？

A 英国公使パークスが鹿児島を訪ね、薩摩藩と武器の取引きについて話すとこの情報を得たからだ。これを知った晋作は、長州藩も時流に取り残されてはならないと考え、慶応二年(一八六六)二月、鹿児島への出



長防臣民合議書印刷所跡
(萩市)

晋作、幕府と戦う

Q 81 なぜ開戦したのか？

A 幕府が示した長州処分案は、藩主父子の蟄居と十万石削除であった。幕府としては精一杯の譲歩である。ところが慶応二年（一八六六）五月二十九日、長州藩はこの条件を蹴り、談判は決裂した。長州藩は前年の長州征伐の際降伏したから、処罰は済んだと考えている。にもかかわらず「私心」をもって攻め寄せてくる幕府こそ、長州藩にとっては「賊」なのだ。残された道は、開戦しかなかったのである。

Q 82 なぜ士気が高まったのか？

A 長州藩では幕府との開戦直前、『長防臣民合議書』と題した小冊子を公称三十六万部も印刷し、藩内の武士から庶民にいたるまで全戸に配布し、士気を高めようとした。いま、なぜ幕府と戦わねばならないのか、長州藩の正義はどこにあるのか等を具体的な例を使い、仮名交じりで分かりやすく説明した内容だ。印刷物を使って、庶民を戦いに巻き込んだ

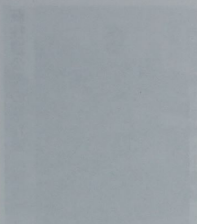
晋作の詩

諺曰浮世三分五厘
從神武起二千年
億万心魂散作煙
愚者英雄俱白骨
真斯浮世直三錢

諺に曰う浮世は三分五厘
神武起つてより二千年
億万の心魂散つて煙と作る
愚者も英雄も俱に白骨
真に斯の浮世は直三錢

慶応元年頃の作。日本が開かれて以来の愚者も英雄も、死んでしまえば皆同じ白骨だ、この世は三錢の値打ちしかないという、いかにも晋作らしい、虚無感あふれる詩である。

製蒸気船（九四トン）を、来るべき幕府軍との戦いに必要であると判断した晋作は、独断で購入契約を結ぶ。代金は三万六千二百五十両。当時、長州藩は蒸気船といえば、薩摩藩名義で前年購入した乙丑丸（三〇〇トン）しか無かった。しかもオテントーは晋作がかつて上海で見、その威力に驚いたアームストロング砲（射程距離三千呎）を搭載していた。藩政府では、晋作の独走を非難する声が高まったが、井上や木戸の周旋により、撫育金（特別会計）での購入が決定した。オテントーは藩海軍局に帰属し、慶応二年（一八六六）の干支にちなみ丙寅丸と改名された。



Q 87 小倉戦争での晋作の作戦は？
A 圧倒的多数の幕府軍に、高杉晋作は得意の奇襲攻撃で挑んでゆく。一度目は慶応二年（一八六六）六月十七日未明、五隻の長州軍艦を指揮

Q 86 小倉戦争とは？
A 四境戦争最大の激戦となった小倉方面の戦闘を、小倉戦争と呼ぶ。長州軍は海軍総督高杉晋作の指揮下、奇兵隊・報国隊など一千が下関に陣を構えた。一方、幕府軍は老中小笠原長行の指揮下、小倉・肥後・久留米・唐津・柳河藩や八王子千人隊など約二万が小倉城に集められた。戦いは慶応二年（一八六六）六月十七日、長州軍の奇襲に始まり、翌三年一月二十三日に長州・小倉両藩の間で和議が成立するまで続いた。

Q 85 戦いはいつ始まった？

A 四境戦争の火ぶたが切って落とされたのは、慶応二年（一八六六）六月七日のこと。幕府艦隊が周防大島を砲撃、占領したのだ。藩命を受けた高杉晋作は丙寅丸に乗り込み、十二日夜、大島久賀沖に停泊中の四隻からなる幕府艦隊に奇襲をかけた。続いて第二奇兵隊が上陸して、あわてる幕府軍を追い払い、大島を奪いかえた。



丙寅丸が幕艦を奇襲した大島久賀沖（久賀町）

大名は、幕末の毛利家だけと評される。

Q 83 晋作の決意とは？

A 開戦前の慶応二年（一八六六）六月、晋作は訪ねて来た中岡慎太郎に、その決意を語った。晋作はまず、外圧から日本を守れない幕府を一日も早く倒し、朝廷の権威を確たるものにしなければならぬと力説。続いて長州藩の興亡は二の次で、日本を大危機から救うことが出来なければ、天下の有志に対して面目が立たないとも語った。晋作がすでに藩の枠を越え、日本という観点から物事を考えていたことが分かる。

Q 84 四境戦争とは？

A 幕府は諸藩に号令し、長州藩領を四方から取り囲ませ、長州再征を開始した。戦闘は大島口・芸州口・石州口・小倉口という四つの国境で行われたため、長州藩ではこの戦いを「四境戦争」と総称した。日本史の上では「第二次幕長戦争」などと呼ばれる。幕府軍は長州軍の五十倍もの兵力を動員して長州藩を潰そうとした。だが、長州藩は藩主から庶民までが決死防戦の覚悟で一体になって戦い、幕府軍を撃退する。



幕府征長軍の本拠・小倉城
(北九州市)

Q 90 なぜ幕府軍は解兵したのか？

A 慶応二年（一八六六）七月二十日に、將軍家茂が大坂城で病死したからである。その知らせが届くや、小倉口の小笠原総督は、長州再征軍を解散させてしまった。またその頃、上方や関東で、戦争による物価高騰が原因で大規模な一揆や打ち壊しが相次いでいた。幕府は、背後にも民衆という敵をつくってしまったのだ。

九月二日、幕府使節勝海舟と長州藩代表との会談が芸州宮島で行われ、休戦協約が締結される。さらに翌三年一月二十三日、孝明天皇が突然崩御したのを口実に、幕府は長州再征軍を解兵した。「休戦」「解兵」というが、実際は大軍を撃破した長州藩の圧勝だった。長州一藩に敗れた幕府は、みずからの弱体ぶりを証明することになったのだ。

Q 91 どのように小倉藩を追い詰めたのか？

A 再征軍解散で諸藩の軍勢は帰国し、小倉藩は孤立した。しかし晋作は兵力の犠牲を最小限に止めるため、一気に決着をつけることを避けた。そこで城から見える所で篝火を焚き、いまにも攻め込む勢いを見せて小倉藩を動揺させ、精神的に追い詰めたのだ。

萩往還公園の晋作像（萩市）



して関門海峡を渡り、対岸の門司・田ノ浦を襲撃、占領した。二度目は七月三日、田ノ浦に上陸して海陸二手に分かれ、大里まで攻め込み占領した。ところが三度目の七月二十七日、小倉城下のはずれ赤坂で、肥後藩を相手に凄まじい攻防戦を繰り広げた長州軍は、二十名以上の戦死者を出して一時劣勢となり、退却せざるをえなかった。

Q 88 戦場でのパフォーマンスとは？

A 大島奇襲の時、晋作は丙寅丸の甲板上で床几に寄り掛かり、手に軍扇を持って指揮を下した。「鼠賊の船を撃破するには、この扇骨一本で十分だ」と余裕を見せて、士気を高めた。あるいは小倉戦争でも甲板上に直垂姿で椅子に腰掛け、瓢箪の酒を煽りながら指揮を執った。さらに戦場では、酒樽を開かせて兵士たちを鼓舞したという。

Q 89 なぜ幕府軍は戦意に乏しいのか？

A 幕府軍は多勢といっても、西日本を中心に諸藩から集められた烏合の衆で、戦争の大義名分もはっきりせず、士気が上がらなかった。また、薩摩藩をはじめ幕府からの出兵要請を拒否した藩もあった。

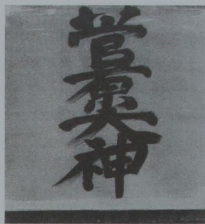


晋作終焉の地（下関市）

Q 96 遺言はあったのか？
A 晋作は見舞いに来てくれた井上聞多や福田侠平に向かい「ここまでやったから、これからが大事じゃ。しっかりやってくれる、しっかりや

Q 95 野村望東救出とは？
A 晋作は、かつて世話になった野村望東が、福岡藩の勤王党弾圧に連座し玄界灘姫島に流されたことを知る。そこで部下に命じて慶応二年（一八六六）九月十六日夜、牢を破らせて望東を救出し、下関に迎えた。恩義にはあくまで報いようとする晋作だった。

ある日、晋作が「面白きこともなき世に面白く」と上の句を作り、望東が「すみなすものは心なりけり」と下の句を付けたという逸話は有名だ。晋作の辞世とも伝えられるが、実は亡くなる前年の作である。



奇兵隊守護旗「菅原大神」
（高杉家蔵）

その結果、八月一日、小倉藩は自らの手で城に放火し、退却する。だが、降伏に反対の小倉藩家老島村志津摩らは小倉の南方、香春に立て籠もり、年末まで抵抗を続けた。

Q 92 晋作の病状は？

A 小倉落城の頃から晋作は血を吐いて、床に伏すようになった。当時は不治とされた肺結核にかかっていたのだ。若いだけに進行も速く、療養する暇もないまま東奔西走していたから、悪化したのだろう。

Q 93 晋作の信仰は？

A マサ夫人は「東行（晋作）は平生天満宮様と観音様を大へん信仰してゐました」と、後年語り残している。天満宮こと菅原道真が、讒言のため太宰府に流されても、皇室のことを思い続けた信念の強さを、晋作は大変尊敬していた。「菅原大神」と書かれた奇兵隊守護旗が現存している。また、病が悪化した晋作は、中国製の小さな観音像を枕もとに置いていたし、野村望東から「観音経」を書いてもらっていた。

Q 94 東行庵とは何か？

A 戦線を離脱した晋作は慶応二年（一八六六）十月、下関郊外の桜山



晋作の息子・梅之進
(高杉家蔵)

晋作は死後、ここで荒魂となつて留まり、下関方面から攻め寄せて来る外敵から藩主を守ろうとしたのだ。また萩の松本村団子岩には遺髪と臍の緒が埋められ、四月二十九日、遺族により仏式の葬儀が営まれ、のち「東行暢夫之墓」と刻んだ墓が建てられた。墓碑の裏には、杉梅太郎による撰文が刻まれている。

Q 99 晋作の息子のその後とは？

A 晋作とマサの間に元治元年（一八六四）に生まれた一人息子の梅之進は、のち東一と名を改め、東京に出て外交官を務めるなどし、大正二年（一九一三）に亡くなった。

晋作が亡くなる四カ月前、父小忠太に書いた手紙の中に、「梅坊も目を追つて成長、言語等も相わかり候の由、嘸々御肝焼きの事と愚察致しおり候。この一事私儀不幸（孝）中の一幸」と述べている。多くの心配をかけた父に対し、晋作は子孫梅之進を残せたことが、唯一の孝行だと考えたかたようだ。晋作の子孫は梅之進こと東一以降、春太郎、勝、力と続いている。

高杉晋作墓所（萩市）



つてくれる」と繰り返した。マサ夫人は、「しっかりとやってくれる」が遺言といえは遺言でございましょう」と語り残している。同志たちが次なる目的である藩主の復権、幕府打倒に奔走する中、再起出来ない体となった晋作は、無念の思いを噛み締めていたのだろうか。

Q 97 晋作はいつ、どこで亡くなったのか？

A 慶応三年（一八六七）四月十三日深夜、寓居としていた下関新地の林算九郎邸の離れで亡くなった。命日は初喪が明けた十四日と定められた。享年二十九、正確には二十七年八カ月の生涯だった。

半年後の十月、將軍慶喜は大政奉還し、翌年九月には明治と改元された。新時代への道筋をつけた晋作は、その重い罪が開かれる寸前になって倒れたのである。

Q 98 晋作の葬儀は？

A 晋作の遺骸は慶応三年（一八六七）四月十六日夜、吉田村清水山に土葬された。同夜、神式で葬儀が行われ、のち「東行墓」と刻んだ墓碑が建てられた。吉田は萩藩の直轄領で、奇兵隊の陣営も置かれていたから、ここに墓を作ることは晋作の遺志だった。天神信仰を持っていた晋

終剋刑場跡に建つ脱隊兵供養塔（山口市）



Q 100 晋作没後の奇兵隊は？

A 奇兵隊をはじめ長州諸隊は、明治元年（一八六八）の戊辰戦争の最前線で戦い、数百名の戦死者を出した。だが凱旋後の明治二年十一月、山口藩（長州藩あらため）は五千名のうち、二千名あまりを常備軍として選び、残りを解散させると発表する。ところが論功行賞も不十分なままで、選抜にも身分による不公平が多かった。

怒った兵士たちは、「脱隊騒動」と呼ばれる反乱を起こすが、藩から徹底した弾圧を受け、百名を越す刑死者を出して奇兵隊は歴史の表舞台から姿を消してゆくのである。

晋作の詩

桜山七絶

落花斜日恨無窮
自愧殘骸泣晚風
休怪移家華表上
暮朝欲拓廟前紅

桜山七絶

花は落ち日は傾き恨み無窮
自ら愧づ残骸晩風に泣くを
怪しむを休めよ家を華表の上に移すを
暮朝拓わんと欲す廟前の紅

慶応二年十月、下関郊外桜山で療養

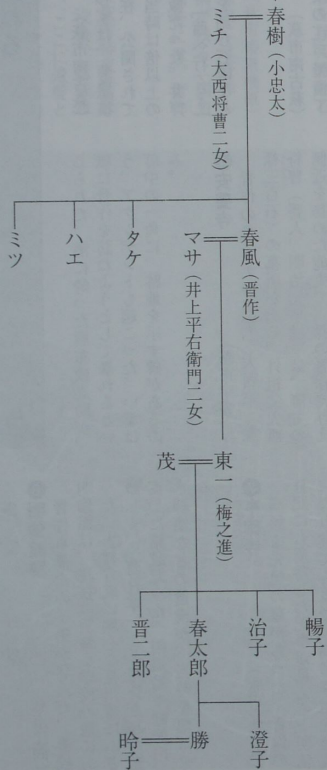
生活に入った時の作。桜山には奇兵隊戦没者を祭る招魂場（現在の桜山神社）があった。その落ち葉を朝夕に掃除しながら、余生を送りたいのだという。

高杉家略系図

|| は養子をしめす

春時 | 春光 | 春貞 | 就春 | 春俊 | 春信 | 春善 | 春明 || ※

※春豊（又兵衛） | 春樹（小忠太）



萩に晋作を訪ねる

1 高杉晋作生誕地

(萩市南古萩)
晋作が生まれた高杉家は、菊屋横丁の一角にあった。現在、公開されているのは南側半分で、当時は倍以上の敷地を持つ、広大な屋敷だった。井戸や鎮守が残り、「言志」「西へ行く」といった、晋作の詩歌を刻む石碑などが建てられている。

2 円政寺

(萩市南古萩)
菊屋横丁より二筋東の江戸屋横丁にある。近所の子供が恐れた、境内の金毘羅堂に掛かる天狗面を、幼少期の晋作は喜んで見に行っていたという。

3 野山獄跡

(萩市今古萩)
進発派説得に失敗した晋作は、元治元年三月、野山獄の北局第二舎に投

じられた。酒に酔った周布政之助が、獄に晋作を訪ねようとして暴れるという、アクシデントも起こった。いまは町中の一角に、跡地を示す碑があるのみ。

4 安養寺

(萩市平安古)
晋作の母ミチの実家、大西家(家禄三百石)の墓所がある。外祖父大西将曹(要人、明治元年没)は、藩主の側近を務めた能吏で、孫の晋作に与えた影響も大きかったと思われる。

5 井上平右衛門宅跡

(萩市江向)
江向十日市筋の一角に、晋作の妻マサの実家、井上家(家禄三百五十石)の屋敷があった。幕末に開かれた下級武士の学問所「敬身堂跡」の碑が建つ

東側あたりが、その跡地である。

6 明倫館跡

(萩市江向)
晋作ら藩士の子弟が学んだ、藩校明倫館は、現在の明倫小学校の地にあった。人材育成に熱心な長州藩にふさわしく、「西日本」と絶賛された充実した施設だった。剣道場や観徳門、水練池などの遺構が、当時を偲ばせる。

7 亨徳寺

(萩市北古萩)
高杉家先祖の墓があった。晋作の日記にも墓参した記事が見える。明治になり建てられた「高杉家祖先歴代墓」と刻む自然石の墓碑があったが、平成四年、下関市東行庵に移された。

8 萩城跡

(萩市堀内)
長州藩毛利家の本拠地。海に突き出た指月山麓に、五層の天守閣がそびえていたが、明治四年に壊された。晋

作は文久元年三月、世子小姓役として初出仕した。

9 大照院

(萩市椿)
東光寺と並ぶ藩主墓所。父小忠太の弟(実は叔父)で、蘭学者の田上宇平太(明治二年没)の墓がある。田上の開明性は晋作に影響を与えただろう。

10 松陰神社

(萩市椿東椎原)
吉田松陰を祭る。境内には晋作も学んだ松下村塾の遺構が残る(国史跡)。本殿左手の松門神社には、晋作の神霊も祭られている。

11 高杉晋作墓所

(萩市椿東椎原)
松陰墓背後にある。没後、遺族は萩で仏式の葬儀を行い、ここに遺髪と臍の緒を埋めた。近くには文久三年の隠棲地跡もある。



高杉晋作略年譜

和暦	西暦	年齢	主な事項
天保10	一八三九	8	高杉晋作誕生(父小左衛門・母ミチ)
安政1	一八五四	16	父に従い江戸へ上る
安政4	一八五七	19	萩朝備領入舎生を命じられる
安政5	一八五八	20	この年、松下村塾を主宰する吉田松陰に入門
安政6	一八五九	21	文学修業のため東遊を命じられる
文久1	一八六〇	22	命により昌平黉を退き帰国の途につく。同月27日、松陰が伝馬町獄で処刑される
文久2	一八六一	23	井上平右衛門の次女ササと結婚(23日とも)
文久3	一八六二	24	海軍蒸氣科修業のため藩の軍艦丙辰丸で江戸に向かう
文久4	一八六三	25	江戸より関東・信濃遊歴の旅試撃行に出る
文久5	一八六四	26	藩主世子の小姓役を命じられる
文久6	一八六五	27	長崎を出帆し上海に向かう
文久7	一八六六	28	長崎に帰着
文久8	一八六七	29	久坂玄瑞・志道聞多らと御殿山に建設中の英園公使館を焼き打ち
文久9	一八六八	30	十年の戦いを請い許され、剃髪して東行し早稲兵隊結成のため周旋
文久10	一八六九	31	下関竹崎の白石正一郎宅に入り、翌日より奇兵隊結成のため周旋
文久11	一八七〇	32	百六十石を給せられ奥番頭役に任ぜられる
文久12	一八七一	33	米島又兵衛ら進発隊の説得に失敗し、土方へ走る

和暦	西暦	年齢	主な事項
元治1	一八六四	26	脱走の罪で野山獄に投じられる
元治2	一八六五	27	下関で四方国連合艦隊との講和談判にあたる
元治3	一八六六	28	8・3・29 下関から博多へ向かう。九州各地で奔走し野山獄のもとに潜伏
元治4	一八六七	29	遊撃隊・力士隊の協力をえて下関の新天地を所を襲撃。「俗論派」打倒の兵を挙げる
元治5	一八六八	30	「討敵」を伝え「俗論派」討滅の主意を宣言。のち内戦のすえに勝利し、藩論は「武備恭順」に統一される
元治6	一八六九	31	下関より長崎に赴きイギリスを企てるも断念
元治7	一八七〇	32	愛人おうのと共に四国に亡命、讃岐琴平の日脚旅行のもとに潜伏する
元治8	一八七一	33	薩摩行きを命じられるが長崎で中止、蒸気船オアシスとを独断で購入し帰国
元治9	一八七二	34	大馬口で幕府軍と開戦(四境戦争・始まる)
元治10	一八七三	35	小倉口の戦いが始まり、作戦を指揮
元治11	一八七四	36	小倉城炎上。この頃から結核が悪化
元治12	一八七五	37	下関新地の林算九郎方で病没(墓碑銘などの命日は14日)
元治13	一八七六	38	厚狭郡吉田清水山に神式で埋葬される

おわりに

高杉晋作は大変筆まめな男だった。私が確認するだけでも二百数十通の手紙を書いており、うち二十通ほどは父小忠太にあてたものである。中でも、亡くなる三カ月前の慶応三年(一八六七)二月十七日、下関の病床から萩にいる父にしたためた手紙には、晋作の切々たる望郷の念が綴られている。

萩に帰りたいと願っていること、体調がすぐれないこと、駕籠に乗ると胸の病に支障が多いことなどを述べた後、暖かくなったら蒸気船で帰省するつもりだと、知らせる。その時期は、蒸気船の便次第なので、突然帰省するかもしれないよ、とも言う。

だが、これが晋作の最後の家信になった。晋作は四月十三日に没し、再び故郷の土を踏むことはなかった。萩には晋作の両親が、妻子が、そして生まれ育った山河が残された。

平成十六年十一月、萩開府四百年の年、新たに旧萩城下堀内に設けられる萩博物館に、高杉家より高杉晋作の史料一括が寄託されることになった。晋作は百三十七年前に予告したとおり、突然帰ってくることにしただけだ。

昨年、萩のケーブルテレビの取材を受けた。その際、記者の質問に「高杉晋作は永遠か」というのがあった。私は「それは今後の萩の人次第ではないでしょうか」と、答えておいた。歴史軽視、人間軽視の風潮が強まる現代社会の中で、萩の果たさねばならない役割は、今後ずっしりと重くなっていくことは間違いない。

平成十六年三月

一坂 太郎

萩を知ろう！萩を楽しもう！萩を伝えよう！

シリーズ「萩ものがたり」①のご案内

萩の椿

吉松 茂



笠山は萩市の北方にあって、日本海に突出した小火山。笠山の北端・虎ヶ崎には約二万五千本のヤブ椿の群生林がある。
笠山の椿や市内周辺の椿の生態や由来を紹介し、椿のカラー写真と椿群生林のガイドマップも収録した群生林散策のお供に格好の一冊。

A5版 60頁 定価600円(税込)
お申し込みは直接「下記「萩ものがたり」まで

第2回(10月)発行予定

萩まじじゅう博物館 西山徳明(九州大学教授)

萩開府 北村知紀(郷土史家)

※出版予定タイトル(変更になることがあります)

- 吉田松陰 ○英国密航留学生・長州ファイブ ○品川弥二郎(産業) ○藤田伝三郎(経済)
- 松下村塾の人々 ○高島北海(画家) ○幕末の科学者・中嶋治平 ○東京の中の萩
- 大阪の中の萩 ○萩偉人伝 ○萩見聞・萩語録 ○松陰先生の言葉 ○萩市の文化財を歩く
- 萩焼 ○萩の年中行事 ○萩沖の島々 ○萩の伝統産業 ○萩の夏みかん
- 巨樹・古木探訪 ○萩沖の魚たち ○萩の天然記念物

萩ものがたりは、定期購読ができます。

年会費2,000円にて、年間4タイトル(4・10月発行)を定期配本。

* 定価割引の特典があり、確実にお手元に、送料は無料!

お申し込み方法 ハガキ・FAXでの申込み 住所、氏名、電話番号をご記入ください。

電話・インターネットでの申込みもお受けします。

会費のお支払い方法 申込みと同時に郵便振替用紙をお届けします。

銀行からの口座引き落としもできます。

萩
ものがたり

有限責任
中間法人 萩ものがたり

〒758-8555 山口県萩市大字江向510番地

TEL 0838-25-3233 FAX 0838-26-5458

http://www.city.hagi.yamaguchi.jp/portal/story/index.html

E-mail story@city.hagi.yamaguchi.jp

落丁本・乱丁本は発行所宛にお送り下さい。送料発行所負担にてお取り替えいたします。

刊行のことは

山口県萩市は、本州西端に位置し日本海に面します。江戸時代は毛利三十六万石の城下町として栄えました。幕末には吉田松陰をはじめ多くの逸材を輩出した明治維新胎動の地として知られています。

このようなことから全国に例をみない近世の都市遺産、明治維新関係史跡や史料、近代日本の礎を築いた多くの人物に加え、北長門海岸国立公園の自然美など、宝物、ともいうべき資源に恵まれています。

しかしながら、明治維新は風化しつつあると言われるように、かつては萩に伝承されてきた物語などが消えつつあります。

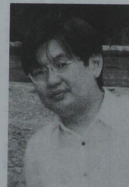
毛利輝元が安芸の国(広島県西部)から萩の地に移封され、開府してから、平成十六年(二〇〇四)は四百年の節目となります。

そこでこれを機に、萩に残る厚みのある歴史文化・人物、豊かな自然、多彩な行事や風物、民間伝承、伝統産業など、後世に語り継ぐべき萩のすべてをアックレット・シリーズ「萩ものがたり」として定期的に刊行し、後世に伝承することにも、全国に向け発信することとしました。

読者の皆様、この小冊子を活用され、萩の素晴らしさを楽しみ、理解する一助となるようお願い申し上げます。

著者紹介

坂太郎



昭和四十一年、兵庫県生まれ。大正大学文学部史学科卒業後、東行記念館学芸員を勤めた。晋作史料が展示される萩博物館(平成十六年十一月開館)を晋作情報の発信源にするため、奔走中。

晋作に関する編著に「高杉晋作の手紙」「高杉晋作覚え書」「高杉晋作漢詩改作の謎」「高杉晋作秘話」「異作語録」「高杉尾探査」「高杉晋作(文春新書)」「高杉晋作史料」他がある。

定価 500円 (本体476円+消費税24円)

萩に生まれ、幕末の動乱を風のように
駆け抜けた快男児。不屈の信念を貫き、
時代の扉を押し開けた二十七年八ヶ月
の短い生涯。
現代の日本に最も求められている男・
高杉晋作の魅力を、Q&A形式でたど
る。どこから読んでも楽しい晋作伝。



39

萩

の が た り

Vol. ②

高杉晋作

2004年4月1日 第1刷発行

著者 一坂太郎

発行者 野村興兒

発行所 有限責任中間法人 萩ものがたり

印刷 有限会社マシヤマ印刷

萩市立図書館



110447885